

令和2年度 市長タウンミーティング（オンラインミーティング）
意見交換の概要（令和2年11月5日実施分）

議題1「学校教育における新型コロナウイルスに関連した心配事」について

【意見】

- ・私立学校に比べてリモート授業の導入が遅かったこともあり、自粛期間中の子どもの生活に差が出た。もし、次にコロナで臨時休校になった時には、迅速に対応してほしい。

●岡田市長

- ・今月中に、学校にパソコンを整備し、ネット環境のない家庭にもWi-Fiルーターの貸出を行い、すべての生徒が自宅で勉強ができる体制を作る。コロナ禍では、先生が各家庭を訪問することも難しく、学校現場も苦労した。今後、もし臨時休校ということになれば、対応できるように各学校と協議したいと思う。

【意見】

- ・臨時休校で学校にいけず、クラスメートは誰かも分からず、不安な気持ちが子ども・保護者共にあった。分散登校も5月頃から始まったが、コロナの中で、クラスメートや下級生等とどう接すればいいか分からず、コミュニケーションの面で悩んでいた。子どもたちの心のケアは必要であると思う。
- ・冬に入り、新型コロナウイルスの感染が拡大してしまう可能性もあるが、子どものことを第一にコロナ対策に取り組んでほしいと思う。

●岡田市長

- ・昨日、小学校PTAの方とオンラインミーティングした中で、マスクをしてのコミュニケーションは難しいという話も出た。他にもまだ課題はあると思う。コロナ感染者に対するいじめ・差別についても心配であると思うが、心配なことがあれば、学校に相談してほしいと思う。

【意見】

- ・コロナでクラブ活動が制限され、大会が中止になったりして、子どもたちが目標を持ってなくなった。人との関わりも減り、子どもたちの心の状況が心配。

●岡田市長

- ・クラブ活動や学校行事等では、子どもたちにいろいろ不便をかけてしまっていると痛感している。今はそれらも規模を縮小しつつ再開しているが、コロナ対策を講じながら、クラブ活動や学校行事、大会運営を学校と考えていき、子どもたちが有意義に楽しく生活できるよう取り組みたい。

【意見】

- ・タブレットで勉強するのも一つの手だと思うが、教室に集まってホームルームをする時間も子どもにとっては大切な学びであると思うので、そういうところがどうなるのかなあという漠然とした不安がある。

●岡田市長

- ・パソコン導入は、教科書を用いながらの従来どおりの授業と並行して進めていく予定である。ただ、人を思いやる気持ち等、忘れてはいけない人間の本質的な部分があるので、人とのつながりを大切にしながら、新しい授業のあり方と融合させて、充実した教育を学校と一緒に進めていきたい。

また、昨日のオンラインミーティングで話になったが、パソコン導入によって、そのパソコンでゲームばかりするのではないかな等、不安の声もあったが、正しい使い方を授業で伝えられたらと考えている。

【意見】

- ・臨時休校が明けた後、子どもが学校に行かなくなるのではと心配した。コロナで学校に行きにくくなった子どもがいると思う。そういう子の対応をお願いしたい。

●岡田市長

- ・勉強の遅れについては、1年間かけて徐々にペースを上げながら取り戻していく。子どもは柔軟性があるので、友達との距離もコロナ前のように上手くやっていけるのではないかと感じている。パソコンの導入により、コロナで臨時休校になった際の対応はもちろん、普段から学校に行けなくなっている生徒に対しても教育の遅れを取り戻せると期待している。

【意見】

- ・未曾有の事態に対して、市長、教育委員会、現場の先生方が奮闘して対策しているのを保護者として感謝している。

- ・子どもは大人に比べて、マスクをする時間が長く、いつかストレスが爆発してしまうのではないかと危惧している。
- ・中学生の部活動は子どもにとって大切なことであるが、特に中学3年生の保護者にとっては、子どもの応援に行ける最後の機会なので、来年くらいからは保護者も観に行けるようにしてもらえるとありがたい。
- ・保護者だけがコロナに感染し、医療機関や専用ホテルに隔離される生活になった場合、子どもはどうなるのか分からず不安なので、教えてほしい。

●岡田市長

- ・私自身も部活動を頑張っている子どもの父だったので共感するが、コロナ感染拡大を考慮して、オンライン観戦等も検討しながら、できる限り取り組む。
- ・保護者が感染した時の対応は、最終的には保健所が判断する。まず、近くに親族の家があり、預けることができるのかを考え、それが難しい場合には、富田林子ども家庭センターと保健所が協議して、子どももホテルで生活できるようする等、状況に合わせて対応することになると思う。その際の食べ物はデリバリーを活用して、感染拡大に考慮して生活できると思う。ホテルでの生活は、子ども家庭センターがサポートする。

議題2「市が実施するコロナ後を見据えた学校教育施策」について

【意見】

- ・真夏の暑い中、子どもはマスクをして重い荷物を持ち通学するので熱中症にならないか心配になった。スクールバスを運行してもらうことは難しいと思うが、タブレットの導入で教科書の冊数が減って、荷物が軽くなって通学の負担が減ることに期待している。
- ・懇談や参観等の、親同士のコミュニケーションもコロナ前のようには難しくても、実施できる方法を考えてもらえればと思う。

●岡田市長

- ・来年の熱中症対策は検討する。パソコン導入の始めはドリルとして使い、将来的には、徐々にデジタル教科書の機能を持たせる予定。

【意見】

- ・11月中にパソコン導入とのことだが、実際いつ生徒にパソコンが行き渡るのか知りたい。

●岡田市長

- ・パソコンは11月から順次納入されると聞いている。今年中には、すべての学校に配備されると思う。最初からすべての授業に取り入れるわけではなく、徐々に慣らして使用していく予定である。

【意見】

- ・コロナ対策としてパソコンを導入するのだと思うが、コロナ後のパソコンの活用方法はどうか。

●岡田市長

- ・授業での具体的な使い方は学校の先生に任せている。現代社会では、パソコンは欠かせないツールになってきているので、義務教育の年齢からパソコンを使い慣れるために授業に用いる。

パソコンでの授業はコロナで臨時休校になった際も活かすことができるが、他にも、世界中の人たちと繋がって英語の勉強ができる等、色々な活用方法がある。

また、デジタル関連は急速に技術が進んでおり、数年で環境が変わるものであるから、それに乗り遅れないように進めていきたい。

【意見】

- ・パソコン導入にあたって、Wi-Fiがある家庭とない家庭で学習に差が出るのではと不安。
- ・実際に学校で学ぶことの重要性が希薄になるのではと心配。

●岡田市長

- ・いきなり学校や家庭での勉強がすべてパソコンで行うようになるものではない。保護者がパソコン知識に長けている家庭とそうでない家庭で家庭学習に差が出ることは私も心配しているところだが、学校でそれを補い、差が出ないようにする。
- ・人との繋がりやコミュニケーション等の人間形成の部分は、学校で指導して学んでもらうようにする。

【意見】

- ・文面のやり取りだけではなく、人と人が顔を合わせて感じる感情的な部分を子どもには大切にしてほしいと思う。
- ・真夏の熱中症対策で子どもに水筒を持たせるが、通学時に元々多い荷物がさらに増えることになって困っている。学校にウォーターサーバーを設置してほしい。

●岡田市長

- ・来年の夏もコロナが蔓延している状況であれば、熱中症対策については、学校と協議して対応を考えていきたい。ウォーターサーバーは特にコロナの状況下では、衛生面的に不安がある。藤井寺市はコカ・コーラボトラーズと業務提携を締結し、市の事業に協力してもらうことができる。今後どうなるかは、関係各所と協議しなければならないが、例えば校内に自動販売機を設置する等、対策を考える。PTAの皆さんにも相談することになると思うので、その際はよろしくお願ひしたい。

【意見】

- ・これから冬になり寒くなり、コロナ対策のために換気をしなければならないと思うが、エアコンやストーブを贅沢に使っても、光熱費等は問題にならないのか。換気面で、どういう対策を考えているのか教えてほしい。
- ・パソコンを壊してしまった場合、修理費は誰が負担するか教えてほしい。

●岡田市長

- ・エアコン等は寒くないように使ってもらったらいと思う。常時、喚起するのが望ましいが、困難な場合は30分に1回5分換気するような形で、適宜換気してもらえればよいと思う。
- ・故意ではなく、普通に使っている中で故障した場合は、市で加入している保険で補償する。

以上

○当日の様子

